

逆境は優れたリーダーを創る

ビヨンドトゥモロー 活動ハイライト 2019 - 2020



逆境にある若者を応援するのは、困難を経験したからこそ、
他者の心の痛みにも共感し、社会のために行動する資質を有していると信じるから。

BEYOND
Tomorrow

ビヨンドトゥモローは、親との死別・離別を経験したり、
虐待やネグレクトから保護され、
児童養護施設に暮らすなどの困難を経験しながらも、
その困難を糧に、社会に力を添える存在となることを
志す若者を応援しています。

この活動の持続的な発展のために、
皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。



「ビヨントゥモローのプログラムで自分の夢に言及する中で、児童養護施設で育った身としてやりたいことが自分にはあったのだと気づかされた。起業家の方々を訪問したり、IT企業のインターンに参加したりと、人生の目的が明確になり、毎日に彩りが加わったと思う」

「お母さんを死なせてしまった自分が夢を叶えたりしていいのだろうか、と悩んでいた自分に、夢をあきらめてはいけない、と応援してくれる人たちがいた。

将来は、人に寄り添える弁護士になることが夢」



逆境は優れたリーダーを創る

ミッション

困難を経験した若者が共感力ある人材として成長し、社会の各所で活躍することで、寛容な社会を実現する

ビヨンドトゥモローの価値観

¶ 短期的な弱者救済を目的とせず、時代や地域を越えて多様な価値観が共生する社会の実現を志す

ビヨンドトゥモローの目的は個々の学生の支援にとどまりません。彼らが将来、それぞれの道で輝くことで、困難を経験した人の価値観が反映される社会の実現を目的としています。

¶ 挫折や失敗を含む多様な生き様を尊重

若者たちが前に進んでいく過程においては、失敗や挫折があり、その経験が人を成長させます。ビヨンドトゥモローは、それぞれが安心して失敗できる環境を提供していきます。

¶ 困難な経験は共感力をはぐくむ上での糧であり、逆境にある若者は弱い存在ではない

ビヨンドトゥモローが逆境にある若者を応援するのは、彼らがかわいそうな存在だからではありません。それまでの困難は負の出来事ではなく、大切な財産であると考えています。

¶ 社会の各領域のステークホルダーの知見を結集

目指す社会の実現のためには、幅広い領域における知見や、領域を越えた連携が重要になります。あらゆる領域のステークホルダーが連携することで、ビヨンドトゥモローの活動が社会にもたらすインパクトの最大化をめざします。

「多様な価値観が共生する社会」 ビヨントゥモローは、逆境にある若者の支援を通して、 私たちが生きる社会の未来を変えていきます



一般財団法人教育支援グローバル基金
ビヨントゥモロー
ファウンダー／マネージングディレクター
坪内 南

技術の進歩、経済の発展に伴い、現代の生活は格段に便利で豊かになりました。一方で、国内では貧困や虐待、世界では宗教や経済を巡る対立や環境問題などの諸問題への解決策が求められています。そして今後の社会がより良い場になっていくためには、自由の定義、尊厳のあり方など、複雑な問いへの答えも求められていくでしょう。その取り組みにおいて、異なる価値観を認め合い、社会を構成するひとり一人の想いが尊重されることが重要であると私たちは考えています。自らの価値観のみを正義と思いこみ、多様な考えを受け入れることができない社会、単一的な価値観により形成された狭量な社会制度は、持続可能な豊かさを遠ざけてしまいます。

ビヨントゥモローは、様々な事情で社会経済的に困難な立場に置かれた若者たちの社会参画を促進すべく、奨学金支給、人材育成プログラム、調査・発信活動を行っています。

この試みの根底にある発想は、弱者救済ではなく、多様な価値観が共生する社会の実現です。虐待やネグレクト、親の病死・自死・離別、貧困などの逆境を経験した若者たちは、他者の痛みに想いを馳せる、「共感力」を持っています。そして彼らが経験した困難は負の出来事ではなく大切な財産であり、彼らが将来、社会で活躍することで、弱い立場を経験した当事者の体験が社会に反映されていきます。

少数派と位置づけられていたり、声が反映されていなかったりした人々の参画は、集団の中長期的な競争力の向上、調和的發展につながります。それは、昨今のビジネス、アカデミア、スポーツなど各領域における事例が示す通りです。同様に、ビヨントゥモローが応援する若者たちの活躍の先には、寛容さに富む、彩り豊かな社会があると考えています。

他者の心の痛みに想いを馳せる共感力を持つ若者が社会を変えていく道筋を作るといふ挑戦には長い年月がかかります。その過程において、ひとり一人の人生における「成功事例」を急かすことなく、挫折や失敗も大切な糧として、共に歩んでいきたいと考えています。

この試みの成否の指標は、応援した学生の将来のキャリアにおける社会的地位の高低や、就いた職業が社会に与える影響力の大小ではありません。全員がそれぞれの場所で、様々な色や大きさの花を咲かせることを応援し、その成果を地道に積み重ね、活動の輪を広げていくことで、寛容な社会の実現に近づいていきます。そしてこの活動が、日本国内にとどまることなく、世界の難民や貧困層などを対象とする地球規模での取り組みとなる日も遠くないでしょう。

困難を経験した若者を今日、支えることは、遠い未来に向けた種まきの始まりです。まいた種が芽を出し、葉をつけ、やがて花を咲かせ、その積み重ねが大きな花畑となり、新しい景色を創っていきます。この試みを前進させるべく、多くの方にご賛同いただき、お力添えをいただきたく、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

主催団体からのメッセージ



ビヨンドで育った若者の活躍が社会の目を変える

橋本大二郎 元高知県知事

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、社会の多くの仕組みを変えていくことでしょう。そこではきっと、これまでにはない感覚や発想が求められます。その時、活躍が期待されるのは、成長の過程で平坦な道りを歩んできた人ではなく、遠回りをしたりつまずいたりして、ほかの仲間とは違った経験を積み重ねてきた人材です。そこで、私たちビヨントゥモローは、周囲の環境や本人の個性から、これまでその力を伸ばす機会に恵まれなかった若者に、成長のきっかけづくりの場を提供していきます。



彼らが創る温かい社会が、世界をより良いものにする

木山啓子 特定非営利活動法人ジェン(JEN) 理事・事務局長

ビヨントゥモローは、困難を経験した若い人たちが、時に悩み、立ち止まりながらも前に進む姿を応援しています。よい時も悪い時も、一人一人が力強く生きていく過程に寄添い、彼らが安心してまた歩き出すためのサポートや支え合える仲間を作る場を提供するこの活動の意義は、今後ますます高まっていくと思います。ビヨントゥモローから巣立っていくメンバーたちは、人一倍、人の痛みがわかり、だからこそ多様性を大切にする資質をもっています。彼らが創る温かい社会が世界をより良いものになると信じています。



「自らを信じる」ことができる社会を実現したい

小林正忠 楽天株式会社 常務執行役員チーフウェルビーイングオフィサー

創設から理事を務める私がこのビヨントゥモローを通じて実現したい世の中は、一人一人の若者が「自らを信じる」ことができる社会です。経済が発展しても、技術が進歩しても、様々な困難な状況にある若者は少なくありません。多様な生き様、多様な価値観、一見すると「常識」では考えられないような意思決定を下す若者たち。そんな彼らから多くの気づきや刺激をもらっています。これからの社会は多様性の中でお互いを尊重しながら共存していくことが求められますが、彼らと共に未来を描いていくことを楽しみにしています。



ビヨンドの学生たちは将来、日本・世界をリードする

村瀬悟 メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士

私はニューヨークから日本や海外のNPOを見る機会に恵まれています。ビヨンドの学生が苦境を克服した明るいエネルギーは本当に頼もしく、ぜひ彼らの姿をご覧頂きたいと思っています。”The BEYOND Tomorrow students are the future leaders of Japan and of the World, as they each show us how we can overcome and become stronger from adversity”と感銘したアメリカの友人の言葉が印象的です。ビヨンドの学生たちは将来、日本・世界をリードするでしょう。彼らが苦境を乗り越えて強くなった姿から学べるものが多くあり、ぜひビヨントゥモローへのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



若い人々が自由に元気に活動できる社会を

羽生善治 将棋棋士

コロナウイルスに代表される昨今の社会情勢は予断を許さない状況にあります。誰もが先を見通せない不安や心配を多かれ少なかれ抱えているとも考えています。以前、東日本大震災から間もない時期に被災地に訪ねた事がありました。その時に地元の方から聞いた印象的な言葉は「子供達が元気に遊んでいる姿が沈んでいる大人達に勇気をくれる。」若い人々が自由に元気にありのままに活動出来れば自然に社会も元気になるものです。ビヨントゥモローの活動を応援しています。



人が育つこと、未来を創ること

宮城治男 NPO法人 ETIC 代表理事

ここに集う若者たちを見ていると、かつての私たちとはまったく違う新しい眼差しで未来を見据えている気がして驚くと同時に、変わらぬ青春の葛藤の中にある姿にこちらも熱く応援したくなります。時に私たちに想像できないような困難の中で、真剣に自らの命や、社会に向きあって生き、挑戦しようとする若者たちにふれ、支えていくことが、私たちが未来に向きあう契機をくれていることを思います。ビヨンドトゥモローは、人が育つこと、未来を創ることとは何か、あらためて私たちに教え、学ばせてくれる場所です。



逆境を経験した若者たちの可能性を応援します

山崎直子 宇宙飛行士

地球は丸くて青い「宇宙船地球号」だと、知識だけでなく自分ごととして腑に落ちた時に、地球上の課題がより身近に感じるようになりました。正解がない、答えが一つでない時代では、様々な課題を実感し、共感し、自分ごととして捉えることが特に大切になると思います。大人も葛藤の連続ですが、逆境を経験した若者たちが、迷いながらもその経験をバネにしていく過程で、自分が成長するだけではなく、きっと周りにも影響を与えるはず。そうした皆さんの可能性をビヨンドトゥモローと共に応援しています。



この取り組みからリーダーが生まれていく

塩崎彰久 長島・大野・常松法律事務所 パートナー弁護士

リーダーシップとは、政治家や経営者など一部の人のみに授けられている天賦の才能ではありません。それはすなわち、信念に基づいて周囲を巻き込んで変化を起こしていく力、本来は誰もが持っていて、トレーニングと実践を通じて磨いていくことができる素質です。ビヨンドトゥモローを通じて、逆境や困難を経験した多くの若者が、個々のリーダーシップを磨き、変化を起こす力を伸ばそうとしています。私たちの社会が抱える複雑な諸課題をこれから解決していってくれるリーダー達が、このプログラムから生まれていくことを確信しています。



変えること、変えないこと、変わる

阿川尚之 同志社大学 特別客員教授・慶應義塾大学 名誉教授

「私たちが生きる社会の未来を変えていきます」。ビヨンドトゥモローの宣言です。ステキですね。でも変えるだけではダメです。変革はよい結果を保証しません。理想に燃えて革命を起こしたロシアの若者たちを待っていたのは、スターリンの恐怖政治でした。それを防ぐには、変えてはいけないことも見極めねばなりません。容易ではありません。失敗もあるでしょう。しかし旧約聖書「コヘレトの言葉」に、「すべてのことに時がある」という句があります。だから若者よ、夢がいつか実現することを信じて、少しずつ前へ進みたまえ。君の長い航海の安全を祈ります。



今の時代ほど「変革の視点」を必要とする時代はない

櫻井本篤 前ジャパソサエティーNY 理事長

設立以来、逆境に育った若者たちを澁刺とした若者達に育て上げた坪内さんの一貫した情熱と指導力には最大の敬意を感じてきました。これからの取り組みはこれを更に発展させるものだと思います。新型コロナウイルスや世界的な政治/経済の不安定など、今の時代ほど「変革の視点」を必要とする時代はありません。変革には冷静かつ幅の広い事実確認、世の中のあるべき変革を見通す力、そして変革を少しずつでも実現しようとする地道な努力と情熱が求められます。私も微力ながらビヨンドトゥモローの挑戦を支援し続けたいと思います。



大きな夢を求めて歩み出す若者を応援します

竹中平蔵 慶應義塾大学 名誉教授・東洋大学 教授

ビヨンドトゥモローは、明日を担う、意欲ある若者をエンカレッジするために作られました。国作りは人作りから…聴き慣れた言葉かも知れませんが、明治維新の時にこれを肝に銘じ実践したのが、福沢諭吉でした。そして今、この人作りに改めて注目しなければならない重要な時期を迎えています。コロナ危機というパンデミックの中で、社会は新しい日常を目指して大きく変わらねばなりません。皆さんには、その主役になって欲しい…大きな夢を求めて歩み出す若者を、ビヨンドトゥモローは応援します。

ビヨンドトゥモローは
2021年に活動10周年を迎えます



ビヨンドトゥモローのあゆみ

- 600人以上の若者がビヨンドトゥモローという挑戦に参加し、たしかな足跡を残してくれました。



2011年

6月に財団設立。初の活動として2011年9月に中国・天津で開催された夏季ダボス会議に、東日本大震災で被災した学生7名が参加し、震災の体験を世界に発信した。

10月には初めての東北未来リーダーズサミットを東京で開催し、被災地から70名の高校生が集い、東北の未来のために自分ができることを考え、提言にまとめた。



2012年

東北未来スカラシップ・プログラムを開始し、初めての奨学金支給を開始。

夏には初めての米国サマープログラムを開催し、被災地の学生たちがアメリカの地を踏み、東北復興の現状を伝え、アメリカの方々からの支援に感謝を伝え、また、アメリカ社会について学んだ。



2015年

初めて参加対象を日本全国に広げ、ジャパン未来リーダーズサミット2015を開催し、日本全国を代表する高校生たちが、日本の未来、世界の未来についてディスカッションを行い、提言をまとめた。



2017年

児童養護施設に暮らす高校生を対象とした年間プログラム「エンデバー」を開始。虐待やネグレクトから保護され、児童養護施設に暮らす日本全国の高校生を対象とし、奨学金支給および人材育成プログラムへの参加機会の提供が始まった。

親との死別・離別や、児童養護施設や里親家庭に暮らすなどの困難を経験した日本全国の高校卒業生を対象に「ジャパン未来スカラシップ・プログラム」を開始。奨学金支給および人材育成プログラムへの参加機会の提供が始まった。



2019年

ジャパン未来フェローシップ・プログラム開始。ビヨンドトゥモローの活動に参加した学生が、ビヨンドトゥモローの活動運営に参加し、自身が担い手となるサイクルの構築に着手した。

新たな時代の開拓 ～ビヨンドトゥモローの活動

人材育成 プログラム

様々な事情により社会経済的に弱い立場に置かれ、困難を経験しながらも、将来、社会のための力となる資質を持つ若者を選抜し、国内外において人材育成事業への参加機会を提供しています。

年間を通じて様々なディスカッションや体験型学習の機会を設け、参加者たちが共に切磋琢磨しながら、社会のありかた、自分たちの役割について考える経験を重視しています。

奨学事業 助成事業

親との死別・離別や、虐待・ネグレクトからの保護、などの困難を経験しながらも、将来、社会に力を添える志と資質を持つ若者を選抜し、進学のための返済不要の奨学金を支給しています。

また2021年度から、非営利団体を対象とした助成事業を開始します。

調査・発信

様々な事情により社会経済的に弱い立場に置かれ、困難を経験しながらも、将来、社会のための力となる資質を持つ若者の社会参画を促進する活動の意義についての社会的認知を高めるための調査、提言、広報活動を行っています。

特に、社会がどのように、逆境を経験した若者たちを登用し、社会変革の旗手として活躍できる環境を整備していくのかというテーマを重視し、社会全体で考えるためのプラットフォーム機能の構築を目指しています。

活動内容



人材育成プログラムは、年間を通じて5回程度開催しており、日本国内のみならず、グローバルな視野を養うべく、海外でも開催しています。

2019年度は、オリエンテーション・プログラムやジャパン未来リーダーズサミットを東京で開催した他、米国サマープログラム(ワシントンDC、ニューヨーク)、アジアサマープログラム(タイ、シンガポール、インドネシア)を実施しました。



2020年度は新型コロナウイルスの影響で、対面でのプログラムを開催できずにはありますが、オンラインプログラムを充実させ、タブレットの無償貸与を開始。日本全国の学生たちがオンラインで学びあう場をこれまでよりも高頻度で提供することができています。



2019年度は、児童養護施設に暮らす高校生を対象とした「エンデバー」および、高卒者を対象とした「ジャパン未来スカラシップ・プログラム」を実施しました。児童養護施設に暮らす高校生の進学準備のための奨学金(上限10万円)および、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設里親家庭、生活保護受給世帯に暮らす新高卒者の大学・短大・専門学校への進学のための奨学金(年間50万円)の支給を行いました。

2021年度より、発達障害が理由で、社会生活における生きづらさを感じている若者の自立や社会参画を支援する団体を対象とした助成事業を開始します。



逆境を経験した若者の社会参画を促進するための取り組みについて考え、その成果を社会へ発信する活動を重視しています。2019年度は、ビヨンドトゥモローに参加する若者の生育環境における課題点や、その体験が将来のキャリアにどのように寄与するのかについてを様々な媒体で発信しました。

2020年度は、困難な体験をもった若者がいかに社会に参画していくかをテーマに有識者による意見交換の場の構築を行う他、広く発信活動を行う計画です。

ビヨントゥモローの活動対象

ビヨントゥモローに参加する若者たちは、それぞれに困難を経験しながらも、その困難を糧に、前に進もうとしています。困難や悲しみの形は様々で、一律に定義づけられるものではなく、一人ひとりのストーリーが特別なものです。

困難や逆境に一律の定義がない中で、ビヨントゥモローでは、現在、下記のようなバックグラウンドを持つ若者たちを活動の対象としています。その背景には、多くの人とは異なる生育環境にあったことを要因とする悲しみや葛藤を経験した若者は、人の心の痛みに想いを馳せる「共感力」をもって活躍する人材となる資質があるという考えがあります。

親との死別・離別を経験

親の病死、事故死、自死や、離婚などにより、親との別れを経験した若者が、喪失感や孤独を抱えながら生きています。

児童養護施設や里親家庭に暮らす

虐待やネグレクトなどから保護され、児童養護施設や里親家庭に暮らす若者たちがいます。頼ることのできる身寄りがない場合も多く、退所後の自立が課題です。

貧困世帯に暮らす

生活保護受給世帯に暮らすなど、経済困窮の中で、日々を生きることに苦勞する若者たちがいます。自身がアルバイトで家計を支え、進学もままならないケースも多々あります。

発達障害を要因とする生きづらさ*

ASD(自閉症スペクトラム症、アスペルガー症候群)、ADHD(注意欠如・多動性障害)などの発達障害の特性により、社会に居場所をみつけることを困難に感じている若者たちがいます。



*発達障害を要因とする生きづらさを抱える若者のための活動は、2021年度に開始予定です。

“小学生の時、母からの暴力に命の危険を感じ、夜中の2時に裸足で家を飛び出し、警察に駆け込んで保護された”

“父の死後、貧しい生活で、自分は幸せになってはいけないのだと思っていた”

“家族と離れて暮らす中で、いつも「自分には居場所がない」という疎外感を感じていた”

“砂糖水で空腹をしのぐこともあり、3日食べられないことがこんなに苦しいとは知らなかった”

“児童養護施設に暮らしていることを学校の友達には隠しながら、心のどこかでは共感を求めている、誰かと話したかった”



この1年間の挑戦 ～地域で、そして世界で～

エンデバー サマーリトリート2019

2019年8月(神戸開催)

夏には、関西圏の児童養護施設に暮らす高校生たちと共に神戸でプログラムを開催し、チームごとに分かれ、自らの体験を軸に、「児童養護施設に暮らす子どもたちが主体的に自分のキャリアを考えるために必要なこと」について考え、解決のための提言を作成しました。



チーム・ディスカッション



ホテルオークラ神戸で職業体験



有馬温泉で浴衣散歩

ジャパン未来リーダーズサミット2019

2019年11月(東京開催)

11月には、日本全国の高校生・大学生約70名が集うジャパン未来リーダーズ・サミットを開催。チームごとに分かれ、自らの体験を軸に、「自立支援のために自分たちにできること」について考え、解決のための提言を作成しました。「自立とはなにか」について、事前に身の回りの人たちにインタビューを実施し、その内容をもとにチームでディスカッションを行い、自分たちに何ができるかを考えました。



大学生たちがリーダーとしてサポート



想いを打ち明ける「体験共有」



「自分に何ができるか」をディスカッション



考えをまとめ、チームごとに発表



最終プレゼンにむけたリハーサル



聴衆を前にした閉会式でプレゼン発表

米国サマープログラム2019 ～村瀬二郎記念奨学事業～

2019年8月(ワシントンDC・ニューヨーク開催)

2012年から毎年継続している米国サマープログラムでは、ワシントンDCとニューヨークを訪問し、「移民」をテーマに、シンクタンクや国際機関、非営利団体などを訪問しました。また、ホストファミリーと過ごす一日や、同世代の若者たちとの交流活動を通じ、アメリカ社会およびアメリカに暮らす人々について理解を深め、グローバルな視野を養う機会を提供しました。



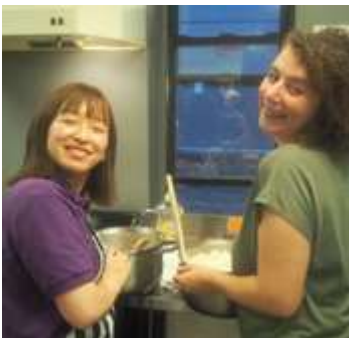
世界銀行でのディスカッション



連邦議会訪問



ホストファミリーとの一日



現地で日本食クッキング



移民を支援する団体でボランティア



川村泰久特命全権大使・国際連合日本政府次席代表との対話

アジアサマープログラム2019

2019年9月(タイ・シンガポール・インドネシア開催)

東南アジアで開催したアジアサマープログラムでは、バンコクやシンガポールといった大都会の著しい経済成長を体感する一方で、タイの少数民族であるモン族の家庭にホームステイするという貴重な体験をしました。また、現地の大学やNGOも訪問し、弱い立場にある人々を取り巻く環境やニーズについて理解を深め、自分たちに何ができるかを考え、最後、シンガポールで英語でプレゼンテーションを発表しました。



現地の孤児院を訪問



山岳民族の子どもたちと



シンガポールでの最終プレゼンテーション発表

卒業生たち

ビヨンドトゥモローを巣立った卒業生たちは、それぞれの道で挑戦を続けています。一人ひとりが歩む道に成否はありません。どんな道を歩むとしても、ビヨンドトゥモローで過ごした時間が、その後の人生の旅路を照らす灯のひとつになることを願い、応援を続けます。

“目に見えていることが全てではない、という学びが、今の仕事にいきている”



今井友理恵

石川テレビ放送株式会社
アナウンサー

高校3年生の時、大学進学を前に、ビヨンドトゥモローに応募しました。逆境が素晴らしいリーダーを生むという考えのもと、人を育てるという長期的な支援の形に魅力を感じました。面接試験でも一人ひとりの内面や考え方を深く見て下さっている感じがして、ますます惹かれたのを覚えています。

初めて参加したプログラムは衝撃的でした。ついさっきまで笑って一緒にふざけていた子が、こんなに辛い経験をしていたなんて、信じられず涙が止まりませんでした。外側から得る情報が全てではなくむしろ僅かなものと学びました。

目に見えていることが全てではないと理解したからこそ、常に初対面の方の話に耳を傾けるという今の仕事において、多角的に物事をとらえ相手の本質を見極めようと努めています。

大学時代は、ビヨンドトゥモローの活動以外にも、アナウンサーになるという目標に近づくために、大学の放送研究会というサークルで活動したり、飲食店でのアルバイトにも励み、充実した日々でした。

お茶の間にいつも元気と笑顔を届けてくれるアナウンサーに憧れ、縁あって今の会社でアナウンサーをしています。好奇心旺盛で欲張りな私の夢を叶えられる、こんなに素晴らしい仕事は他にないと思っています。そして今後、色々な人生経験を重ねて、アナウンサーとして味のある声が出せるようになりたいと考えています。

“ビヨンドトゥモローの活動に参加し、
バドミントンを通して世のため、人のために
元気や勇気、希望、夢を発信したいと思った”



古賀穂

バドミントン日本代表（2018年～2020年）

高校3年生の時にビヨンドトゥモローに応募し、日頃からバドミントン中心の生活だった私にとって新しい世界に踏みこんだという印象がありました。

プログラムでの提言作成を通して、社会全体をみて私に何が出来るのか、人のために役立つことを考える仲間1人1人の姿をみて、私は取り組んでいるバドミントンを通して世のため、人のために元気や勇気、希望、夢を発信したいと改めて思いました。自分の力で社会を明るくすることができるということは、今後、スポーツ界を盛り上げて、世のため人のために活躍していこうと思う私にとって大変貴重な学びだったと思います。

小学1年生からバドミントンを始め、オリンピック出場を夢見て今までやってきました。今も同じくオリンピック出場が夢ですし、オリンピックでメダルを取ることが世のため、人のためになることだと思い、日々練習に取り組み、国際大会で優勝出来るように精進しています。スポーツを通して元気や勇気、希望、夢を発信することが最終目標です。そのためにもオリンピックや世界選手権などの権威ある国際大会で優勝することが必要ですし、達成できる自信もこれからの日々の生活、練習で作っていかないと考えています。

自分自身だけではどうしても視野や価値観が狭くなり、大事なことを見落としてしまいがちです。そんな時にスポーツだけではなく、様々な分野に挑戦するビヨンドの仲間や、プログラムで著名人に会える経験やつながりは自分の考え方や価値観を広げてくれる大切な存在です。またプログラムの中で、社会のために自分はどうしたらいいのか、世のため、人のためにはどうしたらいいのかといったことを深く考えられたことは幸運でした。

社会が激変する今日、先のことはわかりませんが、どんな状況にあっても、世のため、人のために活躍するというこの一点は変わらないものとして、努力していきたいと思えます。

卒業生たち

“ビヨンドトゥモローで、「まず自分が心を開き、信頼することで相手も応えてくれる」と知った”



菅野英那

株式会社リクルート
プロダクトマネージャー

高校時代から大学時代にかけて、色々なプログラムに参加し、最も印象的だったことは、自分自身の最も辛かった過去の家庭内での体験について打ち明けたことでした。小学生の時以来、誰にもその経験を打ち明けることがないまま胸に隠してきました。しかしビヨンドでは誰もが自分の内面を曝け出して共有していて、その場でなら自分も話してよさそうだと感じ、口を開くことができました。

共有したからといって辛い過去が消えるわけではありませんが、一つ自分の心に抱えていた重たいものが昇華できたかもしれないと、長い間きつく張り詰めていた糸が少し緩んだような感覚を得ました。集まった仲間と体験を共有しあえたことにはとても大きな意義があったと思います。

もともとテクノロジーを使って世の中を良くするビジネスを作ることに興味があり、大学時代は、自分でインターネットのサービスを作ろうとしたり、ドイツ留学にチャレンジしたりしました。そして、卒業後はインターネットサービスを開発しているベンチャー企業に就職しました。そこで2年半働いた後、さらに売上規模の大きなビジネスに挑戦したいと考えるようになり、今の会社に転職しました。

社会人生活を送る中で、「ビジネスは人が作っている」ということに気づき、人と本音で向き合える、人に信頼される、人を信頼するということの重要性を痛感しました。そしてビヨンドトゥモローで学んだことは、「まず自分が心を開き、信頼することで相手も応えてくれる」ということだったと、今、感じています。

人は人から刺激を受けるものですし、学生時代も社会人も、良い人間関係は何よりも人生を豊かにするものだと思います。ビヨンドは濃密な繋がりができ、日頃会えない人にも出会える数少ない機会でした。

これからも、インターネットの業界で挑戦を続けていきます。自分が感じた魅力的なものや課題意識、思いついたアイデアを世の中に表現し、その表現された作品と他者が影響しあうということにやりがいを感じるので、ITを駆使してビジネスを作る経験を積んでいきたいと思っています。



ご寄付・ご支援のお願い

～今日のご支援が、先にある未来を変えていきます～

ビヨンドトゥモローの活動の全てが、活動の趣旨にご賛同くださった多くの企業・個人の皆様からのご寄付・ご支援によって支えられています。困難な体験を糧に、前に進もうとする若者を応援すべく、皆様のご支援をお願い申し上げます。

下記ウェブサイトから直接ご寄付のお申込みをいただくことができます

<https://beyond-tomorrow.org/donate/>

ご支援についてのお問い合わせ

(電話) 03-5453-8030

(電子メール) info@beyond-tomorrow.org



オンライン決済、銀行振り込みなどによるご寄付

銀行振込、クレジットカード払い、Tポイントなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウェブサイト (<https://beyond-tomorrow.org/>) またはお電話 (03-5453-8030) でお問い合わせください。

※共感助成を通じたご寄付により、寄付金控除の優遇措置を受けることができます。



遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄付の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付をいただくことで、ご自身の財産や大切な方のご遺志を未来を担う若者を応援する活動をご支援いただくことができます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください (お電話: 03-5453-8030)



商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無償でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。

ご支援者からのメッセージ



“ビヨンドトゥモローに集う若者たちは、自らの手で社会をよくする力を持っているはず”

世界中の優秀な起業家たちと毎日会っていますが、国の状況や家庭環境など出自に恵まれない子供時代を過ごしたという若者に多く出会います。様々な問題を抱えながらも、自らの実行力で未来を切り開き、ソーシャルインパクトを与えうるビジネスの創出に力を注ぐ彼らを、僕は心から尊敬しています。若い時の苦勞が、彼らの起業家精神を養ったように、ビヨンドトゥモローに集う若者たちは、自らの手で社会をよくする力を持っているはずで、挑戦を続けるビヨンドトゥモローの進化を、寄付という形を通して応援しています。

佐藤輝英
BEENEXT Capital Management Pte. Ltd
Founder & CEO

“ビヨンドトゥモローに参加する皆さんが自身の進みたい未来に向かってのびのびと楽しく進んでいかれることを願って応援しています”

逆境を経験したからこそ、他者の心の痛みに想いを馳せ、人のために行動できる人材となることができるという考え方に、とても感銘を受けています。プログラムを通じての、経験や思いを共有できる仲間との出会い・繋がりが、参加する皆さんの人生の財産になることを願っています。私は視覚障害があるのですが、やはり時として人生スムーズにいかないこともあります。視覚障害に関する経験を共有できる仲間との繋がりは、楽しいことを一緒に行ったり悩みを相談したりなど、様々な面においてかけがえのないものです。時として困難もあると思いますが、ビヨンドトゥモローに参加する皆さんが自身の進みたい未来に向かってのびのびと楽しく進んでいかれること、そして他者に貢献できるよう成長されることを、心から応援しています。

安原理恵



“事業活動を通して社会課題の解決や価値の創出を目指すことで、持続可能な社会の実現とSDGs達成へ貢献していきたい”

コニカミノルタは、事業活動を通して社会課題の解決や価値の創出を目指すことで、持続可能な社会の実現とSDGs達成へ貢献していきたいと考えています。グループ会社のキンゴーズ・ジャパンを通じ、プロボノ活動として、2013年からビヨンドトゥモローの活動を印刷サービスの提供という形でサポートしています。自身の逆境に負けず、大きな志を持った若者たちを支えるビヨンドトゥモローの活動に、微力ながらも力となることは、我々にとっても大変誇らしいことです。

御給佳織
コニカミノルタ株式会社
サステナビリティ推進部 社会推進グループリーダー部長



“ビヨンドトゥモローとともに、学生たちの未来に貢献できることを嬉しく思っている”

あしなが育英会は50年間、経済的逆境にある遺児たちへの奨学金、海外研修、街頭募金などの活動を通じて「広く人類社会に貢献する人材の育成」を行ってまいりました。本会はビヨンドトゥモローが掲げる「逆境は優れたリーダーを創る」という精神に強く共感し、共に新しい社会を創出していく仲間であると考えております。本会の職員を長期出向させるという協力を通じ、ビヨンドトゥモローとともに、学生たちの未来に貢献できることを嬉しく思っております。

玉井義臣
あしなが育英会 会長

組織体制

【役員】

■ 理事

橋本大二郎（代表理事）	元高知県知事
木山啓子	特定非営利活動法人ジェン(JEN) 理事・事務局長
小林正忠	楽天株式会社 常務執行役員チーフウェルビーイングオフィサー
坪内南	一般財団法人教育支援グローバル基金 マネージングディレクター
本庄竜介	グリーンコア株式会社 代表取締役
村瀬悟	メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士

■ 評議員

羽生善治	将棋棋士
宮城治男	NPO法人ETIC. 代表理事
山崎直子	宇宙飛行士

■ 監事

塩崎彰久	長島・大野・常松法律事務所 パートナー弁護士
------	------------------------

【アドバイザー】

阿川尚之	同志社大学 特別客員教授 ・ 慶應義塾大学 名誉教授
櫻井本篤	前ジャパンソサエティーNY 理事長
竹中平蔵	慶應義塾大学 名誉教授 ・ 東洋大学 教授

【一般財団法人教育支援グローバル基金及びビヨンドトゥモローについて】

一般財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の輩出をめざす「ビヨンドトゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う資質を持ちながらも、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者を対象に、奨学金支給及び人材育成プログラムの開催を行い、広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出をめざしています。

【設立年月日】

2011年6月

【ウェブサイト】

<https://beyond-tomorrow.org/>

【所在地】

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階 ETIC.内

【電話】

03-5453-8030

【メール】

info@beyond-tomorrow.org

【FAX】

03-6745-9100

一般財団法人教育支援グローバル基金
<https://beyond-tomorrow.org/>

〒150-0041
東京都渋谷区神南1-5-7
APPLE OHMIビル4階 ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org
電話 03-5453-8030

©一般財団法人教育支援グローバル基金
V1 A20/17G